

山崎 和代 ◯やまさき かずよ

社会福祉法人西宮市社会福祉事業団
訪問看護課 課長 / 訪問看護センター 管理者
認定看護管理者

西宮市訪問看護センター(兵庫県西宮市)は3カ所のサテライト事業を展開するステーション。山崎和代さんに、管理者としての日々の思い・考えを語っていただきます。

2

訪問看護を受けることが 当たり前

◆ “当たり前” をめざして

私の夢は「訪問看護を受けることが当たり前になる」ことです。その実現に向けて、私は、患者が病院から在宅に移行しても継続した看護を受けられるように、病院の看護師に訪問看護の役割・必要性を理解してもらうための取り組みを行っています。例えば、当ステーションでは10年以上、病院看護師の訪問看護実習を受け入れています。また4年前、病院看護師と訪問看護師における看看連携の課題に取り組むために、病院の看護部長に訪問看護の立場で病棟カンファレンスに参加できるように働きかけました。以降、週1回、このカンファレンスに出席しています。

さらに兵庫県看護協会では認定看護管理者教育課程セカンドレベルで在宅看護実習が推進されているため、病院の看護管理者が訪問看護ステーションで実習を受けています。それにより、多様なニーズを持つ在宅療養者の理解が深まっています。

このように、長年にわたりさまざまな取り組みを行っていますが、まだまだ“当たり前”にはなっていません。

◆ トップマネジャーの決意

私は2020年度のサードレベルのカリキュラムの1つ「資源管理Ⅲ 経営戦略 訪問看護ステーション経営の特徴と課題・戦略策定」の講義を担当しました。受講生は急性期病院の看護次長がほとんどです。講義後のグループワークで

は自施設の課題に留まらず、地域との連携についても考えていることが伝わってきました。その思いに胸が熱くなりました。さらに先日届いたレポートには、講義をきっかけに「これまで病院から在宅に帰る患者への支援が十分でなかった」といった振り返りとともに、病院と在宅をつなぐ看看連携のあり方や、その実現に向けての決意が書かれていました。さすがトップマネジャー！以下にその一部を紹介します。

「退院後の患者が訪問看護の利用につながらないと思っていたが、“つなげていない”ことに気づいた」「山崎さんの訪問看護に対する誇りと熱い思いが伝わってきた。何より強い信念の下、訪問看護を実践し続けていることがわかった。私も地域資源を知り、地域のネットワーク活動にも参加し、各地域が抱えている課題を一緒に解決する仲間として貢献したい」「訪問看護師は、患者がどんな状態であっても、本人の意向をかなえ、在宅療養生活を支えてくれる存在。私たちは責任を持って訪問看護につなげていかなければならない」「経済的理由で訪問看護の利用を断る患者には、人によって事情は異なるが、目の前の支出だけに気をとられずに、長い目で人生を捉えて、訪問看護の導入により“健康と幸せ”が手に入ることをしっかり伝えたい。

*

今回の講義から、看護を看護でつなぐ気持ちは必ず伝わることを確信しました。もっと伝えていこう、そう強く思いました。



illustration TOKUDOME